

第1回 三種町総合教育会議議事録

- 1 開催日時 平成27年6月29日（月）午後1時30分
- 2 開催場所 琴丘地域拠点センター 小会議室
- 3 出席者 三種町長 三浦 正隆
三種町教育員会 委員長 堀田 キミ子
教育長 鎌田 義人
委 員 嶋田 博光
委 員 水野 京子
委 員 佐々木孝一
- 4 欠席者 なし
- 5 事務局 総務課長 木村 信悦 総務課長補佐 石井 靖紀
教育次長 嶋田 仁 生涯学習課長 後藤 誠
総務学事課長 小林 あづさ
- 6 内 容

午後1時27分開会

木村課長

お忙しいところご苦勞様です。

総務課の木村と申します。よろしくお願いいたします。

委員の皆様既にご存知のことと思いますが、簡単に説明させていただきます。総合教育会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が昨年6月に成立し、本年4月1日に施行されたことに伴いまして、首長と教育委員会が十分な意思疎通を図り地域の教育課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、首長と教育委員会が協議を行う場として、すべての地方公共団体への設置が義務付けられたところでございます。

本日は三種町として第1回目の会議でございますのでどうかよろしくお願い致します。

時間前ですけれども皆さんお揃いですので、只今から第1回三種町総合教育会議を開会いたします。

開会にあたりまして、町長よりご挨拶をお願いいたします。

三浦町長

皆さん、こんにちは。

今日は初めての三種町総合教育会議ということではありますが、正直申し上げますと、私自身も総合教育会議をどのように運営すれば良いのかをまだはっきり把握していない状況であります。

私自身の理解としましては、数年前に、滋賀県大津市の中学校いじめ事件で大津市教育委員会の対応が批判を浴びた事がありました。そこから教育制度改革が始まったものと理解しております。

今日は初めての会議でございますので、委員の皆様のご協力を得ながら会を進めて行きたいと思っております。

せっかくの機会ですので、最近の町の動きについてお話ししたいと思います。

今年度の平成28年3月20日になりますと、町が合併して10年となります。今年度は琴丘総合体育館で開催されます大相撲三種場所を合併10年記念事業として開催いたしますが、主な10周年記念行事等は来年度に開催する予定です。

今年一般会計予算は合併して最大の規模となりまして、去る6月定例議会補正後の総額で111億8千2百70万円、去年同期より11億5千8百80万円の増額で率にして11・5%の増となっております。増加した主な要因は建物道路等のいわゆる将来町の資産となる経費でございます。

その他、平成26年度の補正予算で計上されたスーパープレミアム商品券が発行総額2億8千2百万円として今月19日から販売開始されました。現在約70%の売り上げとなり、残額は7千1百万円となっております。

また、農政庁舎であります、分散されていた農林課、農業委員会、農業公社を役場本庁舎の隣に設置し、今月15日から供用開始されまして、農林関係の手続きがワンストップでできるようになっております。

また、クアオルト推進事業については、ウォーキングコースを町内に5コース設けており、健康寿命の延伸を目標に町内の多くの方々に健康づくりに励んでいただきたいと思います。

また、最近の話題として、ふるさと納税についてであります、昨年の実績は203万円でありましたが、今年は品目を増やし利用しやすいようインターネットのふるさとチョイスに6月から載せたところ、現在783名961万円と大幅な伸びとなっております。今後更にクレジット決済が可能となりますと、更なる増加が見込まれています。返礼品としては、メロンの詰め合わせセット、牛肉・豚肉の詰め合わせセットが多くなっており、本町の産業振興に役立つことと期待しております。

その他お話ししたい事はたくさんございますが、この後の会議ではあまり堅苦しくしないで、私自身も教育に対する思いを率直にお話ししたいと思いますので、委員の皆様のお気持ちも率直

にお話していただくことをお願い申し上げまして開会の言葉といたします。

どうもありがとうございました。

木村課長

ありがとうございました。

それでは、続きまして教育委員長よりお願いいたします。

堀田委員長

皆さん、こんにちは。

例年になく梅雨入りが遅れまして、雨が欲しいと言っていたところ、正に恵みの雨が降り良かったと思っていますところ。

さて、今年度より実施の総合教育会議につきましては、近隣市町村が既に実施されておりましたが、今日無事に開催できて良かったと思っています。

教育については、あくまでも首長である町長さんと教育委員会が話し合いを重ねまして、政治的な中立性が保たれるよう進めて行ければありがたいと思っています。

私も力不足ではありますが、皆様のご理解とご協力をいただきながら、進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

木村課長

ありがとうございました。

皆様のお手元に三種町総合教育会議設置要綱が配付されていることと思いますが、第4条第1項に総合教育会議は、町長が招集し、総合教育会議の議長となると規定されておりますので、以降の進行につきましては、町長よりお願いいたします。

三浦町長

それでは、次第の4番をお願いいたします。

議事録署名委員の指名とありますが、私の方から指名してよろしいでしょうか。

(「はい。」の声あり。)

それでは、堀田委員長よりお願いしたいと思います。

5番の協議事項に入ります。(1)三種町教育大綱(案)について、事務局より説明をお願いします。

嶋田次長

それでは、私の方からご説明いたします。

皆様のお手元に配付しております三種町教育大綱(案)をお願いいたします。

平成27年度～28年度とありますが、教育関係につきましては、三種町総合計画というのがございまして、この中の51ページ、第5章に創造性豊かな文化ときらめく人を育む町ということで、平成24年度から28年度の期間で定めたものがあります。

この総合計画を基本としながら教育大綱につきましては、皆様でご討議いただければと思っています。

今回の大綱案につきましては、その計画の中身を抜粋したものでございます。基本理念というのが、「豊かな自然と大地の恵み心ふれあう協働のまち」教育文化については、「創造性豊かな文化ときらめく人を育む町」ということで、基本方針が1から7までありますが、計画にすべて含まれていることをご承知申し上げます。

平成24年度から始まっている基本計画につきましては、時代背景から見直しを考えていかなければならない部分があると思います。その見直し点について、皆様から話し合いをいただきながら、時代に合わせた文言等に改めるなど、ご検討をいただきたいと考えております。

平成28年度で基本計画期間が終了となることから、来年度は新たな計画の見直し時期となります。今年度から見直しに向けた作業を実施することによりスムーズに来年度の計画内容を検討でき、新たな施策を構築できると考えておりますので、この基本項目を基にしながら、皆様のご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

三浦町長

只今の説明について、補足しますが、教育大綱案は後期基本計画の第5章の教育の部分につきまして、第6節の男女共同参画社会の形成を除きまして、その代り第4節の幼児・学校教育等の充実を3つに分け、就学前の教育の充実、学校教育の充実、青少年の健全育成とし、第5節の国際理解の促進・国際協力への対応を外国語教育の推進と読み替えたものでございます。

そしてまた、後期基本計画は来年度で終わりますので、新たに総合計画を策定することになります。そのためにも、ある程度整合性がとれるような教育大綱としたいと考えております。

堀田委員長

第4節の幼児・学校教育の充実についてを分割して行うということは大変良い事だと思います。

大綱案の4番就学前教育の充実については、特に家庭教育の充実について、非常に大事になってくると感じています。

これまでも、重要性を痛感しておりましたけれども、家庭と就学前の子どもたちの教育がしっかりしていないと小学校にうまくつながって行けないと思っておりますので、今まで出て来られなかった方々も町の行事に参加できるよう保育園との関係を更に密にする必要があると思っております。

佐々木委員

堀田委員と関連しますが、子どもを持っていながら幼稚園や保育園に入っていない子どもたちが集まれる場所として、子育て支援センター等で月に1回程度行事が開催されていますが、参加し

ている父兄は少ないように感じています。

保育園にまだ預けていない方々が積極的に参加することで色々な情報を共有できますので、平日の開催だけでなくもっと参加できるような環境づくりが必要だと思います。

三浦町長

若いお母さん方は参加出来ない状況にあるのでしょうか。

子どもさんがいながら幼稚園・保育園に行っていない人は、詳しい数字はわかりませんが、10%程度いるのでしょうか。

一方では0歳児保育等利用されている方も大分いらっしゃるし、旧町単位でメロンキッズ、ドラえもん広場等開催しておりますが、たくさんの方々が参加できるように工夫する必要がありますね。

他にございませんか。

嶋田委員

芸術文化活動の振興について、若い人たちに多いのですが、地域のことがよくわからない人が多いと思います。

例にとれば、森岳歌舞伎はよく頑張っていますが、実際やることによって地域の人たちが興味を持ってきます。子どもたちも学校でやってみると歌舞伎について、もっと興味を持つと思います。

昔はささら、番楽等ありましたが、急速に衰退していると感じます。地元の人が文化や伝統芸能を知ることが大事で、地元の事を知っていれば三種町を大事にする気持ちが生まれ、将来地域で頑張っていく若い人の自信につながると思います。

三浦町長

そうですね。昨年のふるさと教育として八竜中学校で自分たちの地域を英語で表現してパンフレットを作成する取組がありました。三種町役場商工観光交流課八竜中学校支局という任命書を発し、地域の情報発信を目的に、お互い情報交換し出来上がったものです。英語の表現も国際教養大学の学生さんやALTの協力を得ながら、かなり本格的な表現で作成されております。これもやはり地域を良く知るふるさと教育だと思います。

地域のことは若い方々に早めに意識してもらえた方が、ふるさと教育には大事であると私も思っています。

それで、ゆとり教育は学校で学ぶ時間はあるのでしょうか。

堀田委員長

総合学習の時間がありますので、併せて県教委でも地域の良さを知ろうということで大きな枠組みで組まれています。

昨年から実施され、先程の英語のパンフレットのお話がありましたが、町内各小中学校で取り組んでいます。

国民文化祭の開催があって定着してきた感じがありますので、忘れないでこれを継続していく必要があると思います。

三浦町長 嶋田委員のおっしゃった森岳歌舞伎は小学校４年生で実施されているのですか。

鎌田教育長 現在は、４年生でなく全校から希望する人が、正課クラブとして取り組んでいます。

三浦町長 今年、保存会でやりませんでしたか。

嶋田次長 今年度、クラブ活動に入ったのが４人でありました。ただ、昨年の国文祭を引き継ぐ形で地歌舞伎の祭典を規模的には縮小した形にはなりますけども、本年度も開催する予定でございます。

現在、今年も子ども歌舞伎を披露したいということで、歌舞伎保存会と学校関係者と協議を進めています。

今回、子ども歌舞伎の披露が実現できれば、もう少しクラブに入ってくれる子どもたちも増えてくれると思っています。

嶋田委員 それと、自分達の先輩というか郷土の誇りと言える人がいらっしやいました。それが段々忘れ去られそうな感じがします。

学校で大事に教えていただければ、子どもたちの自信につながると思います。

鎌田教育長 説明いたしますが、今年度の学校教育の重点として、先人教育があります。その一環として山本地区の先人の丘を見学しております。琴丘・八竜の先人たちも合併前の副読本にはたくさん載っておりますので、伝えていく必要があると思います。

嶋田委員がおっしゃるとおり三種町になったがゆえに、それぞれの地区の先人たちが忘れ去られた面はありますので、改訂する副読本には、各地区の先人たちを配慮するようお願いしているところです。

三浦町長 わかりました。

生涯学習の推進については、どうでしょうか。

山本公民館の建築検討委員会が発足されましたけど、特に山本地区は活発に活動しているみたいですが、水野先生はいかがでしょう。

水野委員 今は学校の先生方が忙しすぎて、今やらなければならないことが多すぎるために、とりこぼされる子どもたちの理解というのが、実は遅れているのではないかと感じています。

不登校が問題視されてからそのことの理解と対応が進んでいないと感じています。三種町として共通の認識で何かできれば良いと思っています。

近年、子どもたちが横のつながりや大人とのつながりも薄くなってきていると感じ、個々の世界に没入し、地域とも結ばれないそういう時代なので、学校という中で、また教育の中で、どう大

人との信頼をつなげられるか、子どもどうしや外の人たちとどのようにつながられるかをテーマに考えて行きたいと思っています。

三浦町長

公教育の枠組みから残念ながら入っていない子どもたちもいるわけで、その人たちの教育の場の確保ということですね。

水野委員

公教育の中で、子どもたちの個性をつぶさず、忙しく成果を上げる必要がある中で、そういう子どもたちにどうやって光をあてるかがこれからの時代は必要になってくるのではないかと思います。

鎌田教育長

今述べられたことは非常に大事なことだと思います。

学校には特別支援教育の支援員や情報に関する支援員など色々な形で支援員が配置されています。水野委員がおっしゃるとおり先生方が忙しくて関わるできない部分について、それを補う支援員の配置もされております。

何でもできる子とかいい子ばかりでなく、出来ない、やれない子どもたちに手を差し伸べてやれるような体制づくりが必要と思われるので、町独自で色々な形で支援員を配置して、学校の中に入れるべきだと思います。

三浦町長

現在、町では、学校生活支援員は18名、外国語活動支援員は2名、学校情報支援員1名、特別教育相談員1名を採用しています。

鎌田教育長

三種町の現状として、学校図書支援員がいない状況です。国では図書活動も重点事項としており、補助する制度もありますし、三種町でも検討する必要があると思います。

三浦町長

各校1名必要なのでしょうか。

鎌田教育長

各校1名だと1番良いのですが、出来れば各中学校区に1名配置してもらい、曜日によって学校を廻ってもらえればと思います。

三浦町長

支援員の活動について、よく理解してもらうことで予算協議を実施する必要があると思いますね。

支援員の活動とは違いますが、山本公民館では色々な小物を使い、本を取り易いように工夫されておりました。

子どもさんが興味を持つようなやり方で、大変素晴らしい環境づくりをしていると感じました。

堀田委員長

図書の管理には非常に時間がかかります。学校の先生方には、とても大変な状況です。夏休みや冬休みに全員で協力してやらないとできない状況です。

図書館でゆっくり本を読めるような、調べ物を簡単にできるような環境整備が必要だと思います。

鎌田教育長 図書室とパソコンルームを一緒にする方法もあります。本で調べて理解できない事をインターネットですぐ調べることができるような環境整備も近年増えてきております。

三浦町長 学校の図書館には本がたくさんありますが、古い本が多くて、新刊書が少ないように感じていますが、現在の状況はどうでしょうか。

鎌田教育長 廃棄はしないで、基本的な冊数は決まっていますので、古い本も含めて報告しています。

堀田委員長 現在は、各校の予算では、中々新刊など購入できない状況です。町でも財政的に大変だと思いますが、各学年の教科書の单元ごとに推薦図書がありまして、それを全部揃えとなるとかなりの予算が必要となります。

三浦町長 わかりました。図書関係の予算につきましては、十分協議する必要がありますね。

続きまして、生涯スポーツの推進という項目がありますが、現状はどうですか。

後藤課長 平成23年までに、スポーツクラブが全地域で結成されました。各地域ごとのスポーツクラブが主体となって、体育館や八竜地域のゆめすたを含めてスポーツ教室や日常活動を推進している状況です。

また、体育協会としても、町民参加型のスポーツ大会を開催するなど、町民の方々がスポーツ活動にできるだけ多く参加できる機会を増やすため、婦人会など他団体と連携しながら、いつでも気軽にスポーツができる環境づくりを目指している状況です。

三浦町長 60歳以上の方々は楽しんでいるようですが、青壮年年齢層の参加は少ないように感じますがどうですか。

後藤課長 最近では、三種町8人制バレーボール大会が開催され、各地域で40歳以上でなければ参加出来ない状況にあったのですが、地域を超えて参加したり、山本の豊岡地区では参加者が多く2チームを編成するなど活発化しています。

また、小町地区では、この事業がきっかけとなって定期的に懇親会を開催するなどスポーツを通じて、地域のコミュニケーションの場の広がりにつながっています。

山本地区のスポーツクラブでは、10代から70代の選手が一堂に会して野球に取り組み、多世代間の情報交換の場として交流を深めている事例もあります。

今年度は3地区スポーツクラブ合同による全町単位による野外キャンプも実施されます。現在、全町の小学5・6年生を対象に

募集しております、7月23・24日に石倉山キャンプ場で実施する予定です。

三浦町長 かつてはテニスの講習会とか、各地区の施設の特徴を活かした行事がありましたが、最近ではそのような講習会はどうですか。

後藤課長 現在の体育施設等は、火曜から日曜日までは予約により、夜は全く使えない状況です。

教育委員会としては、月曜日の空いている時間を利用して、ゆめすたを会場にテニス教室を開催しています。

三浦町長 委員の皆さんも何かありませんか。

堀田委員長 今お話しされた年代以上の70歳代位のことですが、先日浜口地区の婦人会で、三種町地域包括支援センターの協力を得て、介護保険についての講習会を開催しました。

4月から介護サービスを受けようと思っていた人が、講習を受けた後で、「これでは大変だ。介護保険料が上がるから、デイサービスはやめて、もう少し自分で頑張る」と言っておられ、そのような意識を持った方がたくさんいました。

このような講習会などはもっと若い世代から実施した方がよいと感じました。

三浦町長 今までの介護保険は施設介護主体でありましたが、今後は、介護予防事業などに力を入れながら、健康寿命を延伸することが重要となっております。

町の特別会計では、国保会計と介護保険会計で約55億円になっております。このような状況から、元気な高齢者を維持することが非常に重要な課題となっております。

次に、青少年の健全育成の項目がありますが、高校生が町の行事等に参加するのは中々厳しい状況にあると感じていますが、逆に町に参加できるような行事が少ないのでしょうか。

堀田委員長 先進の市町村の事例を参考にしながら取り入れて行ければと思いますが、現在は高校生が参加できるような行事は殆どないですね。

三浦町長 高校生が多数参加できるものがあれば、地域も勢いが出て来ると思いますので、今後検討する必要がありますね。

時間も限りがありますので、教育大綱（案）について、他のご意見がなければ、次の案件に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい。」の声あり。）

教育大綱（案）につきましては、今までのご意見の方向性で、1年間かけて協議していきたいと思います。

その他の部分でありますけど、はじめに小中学校での英語教育について話題にしたいと思います。

先般、八竜中学校の2年B組の英語の授業を観る機会がありました。ALTの先生が2人来ておりまして、進度別にクラスを分け、どんどんコースとじっくりコースの2つに分けて授業されておりました。どんどんコースは比較的習熟度が高い方ですが、内容は両コースとも、単に英訳だけでなく、言葉に出して運用するやり方で実施されており、話題を変えながら、話す相手を変えながら実践的に話す英語が身に付く方法で実践されていると感じました。

私たちが習った英語は、英文和訳や文法が主体でありまして、実際に話せる英語は習得できないという日本の英語教育の現状でありましたが、現在の中学生は大変進んでいると感心いたしました。

今後は、山本、琴丘中学校にも訪問してみたいと思っております。

堀田委員長 小学校も1年生から英語の授業をやっておりますので、ぜひ機会がありましたらご覧ください。

嶋田委員 先日、北教育事務所の所長さんが金岡小学校に来られた時も、文章を読んで訳すのではなく、完全に会話形式で勉強されておりました。

現代の子どもたちは聞くこと、話すことから始まりますので、町長がおっしゃるとおり、正に本当の英語を学んでいると感じられました。

三浦町長 英語を母国語としている人たちの英語だけが本当の英語と思いがちですが、そのような事はなく、実際には、多くの国で英語は使われております。

それぞれの国では、綺麗な英語ではないのですが、国際的に通用しています。日本もジャパンイングリッシュと言われますが、私はそれで十分良いと思っています。

国際共通語である英語は1つのツールだと捉え、多少の間違いに拘らずどんどん話して経験することが大事だと思っています。

今後は、国際社会に通じる教育は非常に重要になっていると感じています。

堀田委員長 町には英語の堪能な外国語活動支援員がいらっしゃいますので、指導助手として小学校でも指導してもらっております。

三浦町長 資料1ページには、中3全員英語新テスト、2ページには教師の指導力に関する記事、また3ページには小学校の英語授業につ

いての記事がありますが、これからは、英語が正式な教科になるのでしょうか。

鎌田教育長 小学校5、6年生は教科になります。低学年は外国語活動として活動することになります。

堀田委員長 早ければ早いほど、英語に慣れやすいと思います。

三浦町長 続きまして、3番の小学校の配置についてということで、教育長が自治会長会議等で説明いただいておりますので、教育長からお願いいたします。

鎌田教育長 子どもも少なくなり、複式学級が発生してきた状況にあるということで、色々ご心配してくれる人がたくさんおります。

まず、今の段階では、三種町の6小学校と3中学校に子どもたちがどの位いるのかを知ってもらうこと。

校舎の耐震関係がどうなっているのかを心配されていますので、三種町の9つの学校がすべて耐震補強が終って、震度6強の揺れにも十分耐えられるような校舎になっていること。

小規模校のメリット、デメリット、複式学級が始まっている下岩川小学校の今後の児童数や複式のメリットについてなど、これらの状況に関して、昨年の10月から30以上の団体を対象に説明している状況です。

平成20年に町で再編整備計画を作成しておりますが、これは震災前であったことなどから状況は大きく変わっております。

また、学校統廃合の手引案も60年ぶりに見直しになっております。12学級から16学級を標準学級数にするとか、通学範囲も4キロとか6キロとありましたが撤廃されておりますので、もう一度仕切り直しをした方が良くと思っています。

最近では、小中一貫校という考えも出てきて、義務教育学校という名称で、少子化が進んでいる町村にとっては有効であるという情報もあります。

今後は、町から一方的に進めるのではなく、秋頃には意識調査を実施し、地域の声を聴きながら意見を反映しながら、学校再編の検討を進めて行きたいと思っております。

三浦町長 小学校の統合については、八竜地区と山本地区が対象となりますが、通学区も旧町単位で考えることが出来ます。

しかし、中学校の統合となれば3地区が関係し、三種町は範囲が広すぎて、通学距離が大変な状況になってしまいます。スクールバスを出すとしても、生徒たちは自転車では限界距離を超えてしまうのではないのでしょうか。

鎌田教育長 国の方ではスクールバスで1時間以内という基準も出ています

が、あくまでも地域の実情に沿った考え方で進めなければならないと思います。

例えば、羽後町でも3中学校が統合する予定がありますが、三種町のどこに統合校を設置するか今の段階ではわかりませんが、三種町は広すぎて他町とは比較にならない程、大変な状況となると思います。

嶋田委員

私が心配なのは、現在の上岩川地区の現状を考えますと、学校がなくなったことで地域の中心的な、また精神的な支え、コミュニティの中心がなくなったことにより地域の活力が低下したように強く感じます。

山本地区の下岩川小学校と金岡小学校が統合されるとなると、距離的に森岳に来ざるを得ないと思いますが、下岩川、金岡の地域の人たちの元気がなくなってしまうことが心配です。

先程、教育長からお話ありましたが、学校統合のメリット、デメリットだけでなく、地域への影響についても配慮して欲しいと思います。

三浦町長

私が、下岩川小学校の運動会に行った時も子どもたちの数の3～4倍の方々が集まっております。

移住、定住、地域の若い人たちの子育て支援とかありますが、小学校がなくなるとなれば、本当に暗い気持ちになると思います。

この統廃合の問題につきましては、非常に微妙であり難しい問題であると私も感じております。

続いて、4番の子どもの貧困問題について、現状とか率直なお話を伺いたいと思います。

町では、公的助成を増やして給食費や福祉医療費、今後考えられるのが保育費の第3子以降の無料化とかありますが、子どもの貧困問題については、中央だけでなく地方でも当然考えなければならない事項でもありますので、行政としてどのように対処すべきか大変悩ましい問題でもあります。

委員の皆様の率直なご意見をいただければと思っています。

教育委員会として、現状はどうなっていますか。

小林課長

三種町の小中学校に在籍しています児童生徒なのですが、近年ひとり親家庭が非常に多くなって来ています。

教育委員会では、要保護・準要保護世帯に学用品、通学用品の購入費や給食費、医療費など就学援助費として助成しております。要保護世帯というのは、生活保護を受給されている世帯で、準要保護世帯というのは、ひとり親世帯や経済的に困窮している世帯となります。

平成26年度では、世帯数として90世帯、児童生徒数として140名の子どもたちが認定され、小学校が約360万円、中学校で約520万円を各世帯に援助している状況です。

堀田委員長 私も認定する会議に参加しておりますが、町に農業以外で安心して働けるような場所があればこの制度に該当するような子どもが減ってくると感じております。

それでも、三種町はこのような医療費や給食費を援助する制度が充実しておりますので、大分助かっていると思います。

佐々木委員 先般、地域福祉計画策定委員として参加させていただいたのですが、福祉課の子育て支援関係でも他市町村と比べ、三種町は支援が充実しているという意見がありましたので、三種町に人が集まるひとつの要因とも感じられます。

鎌田教育長 先程の説明にありましたが、要保護者・準要保護者について、三種町140名とありましたが、全県的にみても上位2、3番目と非常に高い比率となっております。

佐々木委員がお話されたように援助が受けられるということで三種町に転入されてるかもしれませんね。

事務局どうですか。

小林課長 様々な事情があって、子どもを連れて三種町に戻ってくる世帯が最近では増えていると感じます。

三浦町長 この問題につきましては、町が支援できる範囲は決まっていますが、この貧困問題が学歴の差になってくると、次の世代へと続いてしまうおそれがあります。

町では、昨年度奨学金の額を3万円から5万円に引き上げたり一時金も30万円として創設しているのですが、意外と利用者は少ない状況でした。

給付型奨学金制度は原資の関係でなかなか実現が難しいのですが、近年では増えてきている傾向にあります。秋田県でも、地方創生の関係で給付型奨学金について検討しているようです。

先日、秋田市にお住いの琴丘出身の方が、橋本五郎文庫に著名な作家の作品を含め50点ほど版画を寄贈下さった方がおりました。その方は旧琴丘町時代に給付型奨学金を利用して高校へ進学したことを大変ありがたく思われまして、何か三種町へ貢献したいという思いから今回町へ寄贈下さいました。

将来の負の連鎖を断ち切るためにも、給付型奨学金制度について検討する必要があると強く感じています。

時間も限りがありますので、6番のその他ということですが、今後の総合教育会議の日程について、事務局の方では何か考え方

ありますか。

木村課長

基本的には、年2回位が適当なのかと考えておりますが、初年度につきましては、教育大綱をどうするのかというのがありますので、状況によっては3回になる可能性もあるかと考えております。

次回は、当初予算の予算編成が11月から始まりますので、その時期に開催できればと思っております。

三浦町長

只今事務局からありました年2回から3回位とありましたが、教育大綱案の検討もありますので、次回開催は、11月頃としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議ありません。」の声あり。)

以上で本日総合教育会議の予定は、全て終了いたしました。

これで、会は閉じたいと思います。

今日はどうもありがとうございました。

午後3時29分閉会

会議のてん末・概要に相違ないことを証明するためにここに署名する。

三種町長 _____

署名委員 _____

